

大道理かわら版 むくろじ

平成二十九年 年頭所感

新年あけましておめでとう ございます。

清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年、全国的に異常気象とも言える地震や豪雨、猛暑等、多くの災害に見舞われ大変な年でもありましたが、幸いにも私たちの住む大道理には大きな被害も無く、平穏な年でもありました。

さて、地域拠点であります「夢求の里交流館」も本年四月には三年目を迎えることとなりますが、地域の皆様方の心温まるご支援により、何とか一歩ずつ前進しているところでございます。

当館の運営管理も多岐に亘る諸事務内容である為、皆様方にはご不自由をおかけすることも多々あると思いますが、地域の声に耳を傾け、出来る限り反映できる様、頑張る所存でございます。情報発信ではかわら版「むくろじ」を通じ、地域内の出来事、伝統文化、人物等について、本年も地域に出て情報収集し、きめ細かくお伝えできるよう努めます。

また、大道理夢プランの実現に向けての取り組みも大道理をよくする会の各部の方々を中心に積極的に推進され、お年寄りに優しい事業展開により、元気で長生き出来る地域づくりに向けての「生活交通もやい便」、「高齢者サロン」、「空き家の解消、便利屋事業等を始め、女性の活躍の場としての配食や安否確認を含めた「ほたる工房」の運営に携わられる方々の大変なご苦労があると察します。

昨年は新年に自主防災組織が立ち上げられ、自然災害時の対応等、今後さらに具現化し、安全安心な地域づくりが期待されます。

また、長年交流を進める中での面白い話題として、四月には漫画家を目指す若い男女六名が移住してくれました。地域活動に積極的に参加し、遊休農地の活用で自家製野菜作りにも汗を流し、大変明るい青年であります。今迄同様、地域の宝として温かく見守って頂きたいと思っております。

こうした取り組みをさらに進め、大道理の原風景を共に守り、交流人口を増やし、併せて地域に経済効果が生まれる仕組みを作り、「住んでいる方」も「訪れる方」も五感で感じられるような里を目指し、皆さんと一丸となって頑張るって参りたいと思っております。つきましては、ご支援の程、よろしくお願いたします。

最後にこれから益々寒さが厳しくなりますが、お体に気を付けてご活躍されますようお祈りし、ごあいさつと致します。

夢求の里交流館館長

井上 正幸

発行元
大道理夢求の里交流館
運営協議会
TEL: 0834-88-1830

平成29年
1月1日号
(No.18)



大道理地区の世帯数と人口	
世帯数	192世帯
人口	395人
男性	180人
女性	215人
高齢化率	53.7%
(平成28年11月30日現在)	

入賞作品が決定しました！

人と自然が繋がる里おどろり フォトコンテスト二〇一六

大道理の四季折々の風景、人、暮らしの中での風景(祭、イベント、日常風景など)をテーマとして開催した「人と自然が繋がる里おどろりフォトコンテスト二〇一六」。

最優秀賞

【最優秀賞】

(一点)



最優秀賞 「マイナスイオン」 福田和紀さん (周南市呼坂)

撮影期間を芝桜まつり期間中の四月十日から実りの季節を迎えた十月十四日までの約半年間としたところ、芝桜の咲き誇る風景だけでなく、地区の名所である「魚切の滝」を収めた作品、夏や秋の風景、アサギマダラを収めた作品など、撮影された方々の個性と視点が光るバラエティに富んだ作品をご応募頂きました。大道理地区の方にとって今回のフォトコンテストは、地域の魅力を再認識できる作品の数々を一堂に目にする機会となり、地区外の方には芝桜だけでは無い大道理の魅力に新たに触れる場になり、今後季節を問わず、多くの方に大道理地区へと足を運んで頂くきっかけの一助となれば幸いです。

優秀賞

【優秀賞】

(一点)



優秀賞 「笑顔満開芝桜」 生島鈴枝さん (周南市久米)

入選

【入選】

(一点)



入選 「大道理 魚切の滝II」 平岡正夫さん (周南市福川)

佳作

【佳作 作品紹介】

(十一票)

「拍動」

檜崎誠さん (周南市栗屋)



「芝桜の里」

川島保子さん (北九州市八幡東区)



「青空に舞うアサギマダラ」

森田清美さん (周南市大道理)



「山里のかおり」

山本由里子さん (周南市周場)



「春の水鏡」

高津貴子さん (柳井市日積)



人と自然が繋がる里おおどおり フォトコンテスト二〇一六

佳作 作品紹介(十一点)

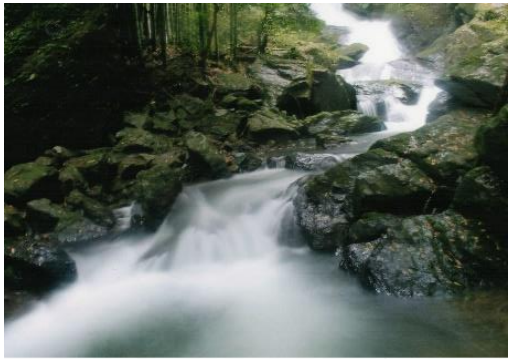
「雨上がりの彼岸花」
松本忍さん(周南市栗屋)



「彩りの里山」
濱田正満さん
(下関市員光町)



「大道理魚切の滝」
平岡正夫さん
(周南市福川)



「春のプロムナード」
高津貴子さん(柳井市日積)



「緑風に泳ぐ」
新出篤子さん(広島県大竹市)



「里山の
グラデーション」
兼平好さん(周南市大道理)



人と自然が繋がる里おおどおり フォトコンテスト表彰式



夢求の里交流館として、今回初めてフォトコンテストを開催しました。県内外の方から七十五点もの作品をご出展頂きました。ふるさとまつり会場でも来場された方が足を止めて、じっくり真剣なまなざしで

作品をご覧になり、投票を呼び掛けたところ快く応じて頂き、沢山の方がフォトコンテストの投票審査に参加して下さいました。作品を応募して下さいました方々、ご来場下さった皆さん、投票にご協力下さった方々、後援頂いた大道理百笑倶楽部さん、フォトコンテスト開催にあたり、応募要項作成から作品の保存、展示方法等事細かな部分まで知恵とお力を貸して下さいましたMさん、作品展示、撤収にご協力頂いた皆さん、大道理地区の皆さん、本当にありがとうございました！



中村会長から表彰状を受け取る福田和紀さん

十一月二十日。カメラのワタナベの浅原透さんを講師に迎えて開催した「紅葉の大道理」秋のカメラ散歩講座の開講前の九時半、フォトコンテスト入賞者の表彰式が行われました。最優秀賞受賞の福田和紀さん、優秀賞受賞の生島鈴枝さん、入選の平岡正夫さん、佳作に選ばれた檜崎誠さん、

森田清美さん、山本由里子さん、松本忍さんが表彰式に出席され、大道理夢求の里交流館運営協議会の中村俊道会長から表彰状と記念品が授与されました。



元気！大道理ふるさとまつりフォトコンテスト会場の様子
11月13日、沢山の方で会場は賑わいました

表彰式直後にカメラ講座開始という日程のため、受賞された方に感想をお伺いできなかったため、後日、最優秀賞を受賞された福田和紀さんに受賞の感想をお聞きしました。

「まず、なぜ大道理のフォトコンテストに応募したかという動機ですが、賞がふるさとまつり来場者の投票形式で決まるという形だったということが作品を応募した大きな理由です。通常のフォトコンテストは、写真の専門家など有識者が審査する形式が多いのですが、投票形式だと誰が見ても綺麗でいいと思うような作品が選ばれるのではないかと思います。「先生」と呼ばれる方よりも一般の方からの投票で自分の作品が選ばれたら嬉しいと感じて応募しました。小さな頃から絵を描くのが好きでしたが、カメラは始めてから今年で六年目です。題材として選んだのは大道理地区の名所「魚切の滝」ですが、三年前前に前向道支所長の井上正彦さんから教わって、度々足を運んでいる場所です。今回応募した作品は、今年の夏、暑い日に涼を求めて訪れた時に撮影したものです。写真をご覧になった方に夏に涼しい場所だというイメージが伝われば良いなという思いで撮影しました。

大道理をよくする会からのお知らせ

「新年会及び新成人・還暦を祝う会」のご案内

日時：平成29年 1月8日(日)
午後1時～3時半
場所：大道理夢求の里交流館 大会議室
会費：男性三千円 女性二千円
申し込み：12月26日(月)。会費を添えて各自で交流館までお申し込みください。

夢求の里交流館からのお知らせ

ミニサロン、サロンお休みのお知らせ

一月はサロン、ミニサロンはお休みです！

編集後記

ふるさとまつりでのフォトコンテスト開催、そしてその翌週にはカメラ講座開催とフォトコンテスト表彰式、その間には「学びの旅」の民泊と、とても濃い十一月があっという間に過ぎゆき、気がつけば今年も残すところあと僅か、というところまで来ました。沢山のことが一気に重なり、「むくろじ」を発行出来ず、一回お休みして一月一日の合併号としてフォトコンテストの結果と学びの旅について書いて頂くといいなと思っていました。その結果、通常の二倍のボリュームになってしまいました。学びの旅では大道理地区の民泊受け入れ家庭の皆さんに、受け入れへの思いをお伺いして掲載しました。フォトコンテスト開催前の昨年夏、印象的なフォトコンテスト作品展との出会いがありました。日頃欠乏しがちな「猫と海」を補給しに度々訪れる萩市と隣接する阿武町で開催されたフォトコンテスト会場に足を運び、「すくすくいいなあ」ととても感動しました。今まで自分が訪れた時の印象を抱いていた姿だけでなく、様々な季節の様々な表情、そこで生活する人々の日常と非日常の風景の数々がフォトコンテスト会場で一堂に会して、写真を見てみると、とても暖かな感情が込み上げてきて、会場内を何度も歩き回って、ひたすら見入ってしまい、帰る際には後ろ髪引かれながら「また何度も来て知らなかった風景を直にこの目で見たい！」と思いが会場を後にしました。今回開催した「人と自然が繋がる里おおどおりフォトコンテスト」には、大道理地区で一番有名な「芝桜」の風景や地域の方「魚切の滝」、ここに暮らす地域の方「魚切の滝」の日常の風景やその季節にしか見ることのできる風景やその季節撮影された方が出会った一期一会の素敵な作品を沢山ご応募頂きました。むくろじ原稿にも書きましたが、様々な方の視点で撮られた写真を見て頂く中で、地元の方には改めて大道理の魅力を感じて頂き、地区外にお住まいの方にはそれまで知らなかった大道理地区の魅力を知って頂ける企画となつたならばとてもうれしいです。初めての試みだったため、どれだけ作品が寄せられるかドキドキしながら受付がいよいよ始まり、あつという間のコンテスト当日、そして表彰式。準備期間から終了までの日々は悲喜こもごものドラマを見ていたかのようでした。その中で、沢山の方がご協力下さり、お陰様で何とか無事に開催、終了を迎えることが出来ました！ご尽力下さった皆様に感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。(山縣清子)

人、食の交流で地域づくり 周南学びの旅



周南学びの旅 入村式での清瀬高校の生徒さんと民泊受け入れ家庭の皆さんでの一枚です

観光スタイルから「見る観光」から「体験滞在型観光」に変化し、中高生の修学旅行も体験型への関心が高まる中で、民家でのホームステイ「民泊」をしながら、田舎体験・生活体験を行い、住民との交流を深める「体験型教育旅行」を行う学校も多くなっています。



離村式後。涙で別れを惜しむ姿が
あちらこちらで見られます

が、この度、十月二十五日から二十七日、十一月十六日から十八日までのそれぞれ三日間、東京都立清瀬高校、岩国市立東中学校の皆さんが、大道理地区を始めとする周南市の中山間地域を訪れ、各家庭での「民泊」や地域での体験活動を通して、「周南学びの旅」を体感しました。事前の民泊受け入れ家庭への説明会から入村式、夕食会、東中の体験学習のこんにやくづくり、離村式にお邪魔して、今回初めて「周南学びの旅」を目的の当りにしました。今号の「むくろじ」はこの取り組みが始まったきっかけについて周南市中山間地域振興室の清水宏昭さんにお話を伺い、それから大道理地区での四軒の民泊受け入れ家庭の皆さんにお聞きした、各家庭でのお話や、受け入れの思いなどをお届けします。

「周南学びの旅」は、地域づくりのための一つとして取り組んでいます。各地域では平成二十二年位から取り組みが始まった夢プランについては、「自分のところではこんなことをやっている」ということなどについてや、「交流」という言葉をキーワードに、「人」との交流、「食」の交流を図り、他の地域から人を呼び

込むための話し合いが行われ始めました。そして国としても当時、「中山間地域に子どもさん（小学生）に来てもらい、泊まってもらおう」という機運が高まっている時期で、大道理地区を含む周南市の中山間地域では、農家民泊での生活体験をする、体験型教育旅行の受け入れへ向けて進んでいくことになりました。



バスに乗っていよいよ出発です

民泊受け入れ前は、どんな食事を提供し、どのような体験をしようか、農産物や、地域にどのような資源があるかを見つめなおす機会となります。受け入れをして頂く個別の家庭だけでなく、地域全体での取り組みとなり、地域づくりに繋がるという意義があります。民泊を始めるには、受け皿を作って受け入れをする必要があったため、平成二十五年十二月に、「周南学びの旅推進協議会」が設立されました。（協議会設立趣意書中にある学びの旅の意義の抜粋を左に記します。）



民泊家庭での農業体験の様子です
(写真提供：中村俊道さん)

「私たちは、周南市の中山間地域の豊かな自然、美しい景観、歴史・文化、食や生業、暮らし、技などの地域資源を活かした、自然体験や農林水産業の体験、民泊等による生活体験など、都市と農山漁村の「交流」を通して、地域の活力や経済循環の創出を図るため、地域団体等が連携して、推進の基盤となる地域協議会をここに設立し、下記の事項に取り組めます。そして、地域協議会の構成団体や地域の住民が一体となつて、自信と誇りを持って暮らせる中山間地域の実現と訪れる人々に心からの感動と喜びを与えられる体験の提供に向けて、様々な取り組みを進めてまいります。」

設立趣意書にある通り、地域づくりにつながるものであることが学びの旅協議会の基本的な土台なので、個人的に協議会会員になるのではなく、大道理地区であれば大道理をよくする会などのような

コミュニティ組織として会員になって頂きます。協議会設立前には、一泊二日の日程で、市内の今宿小学校の児童を夏休みに受け入れしました。こちらについては、大道理地区では六家庭の方が受け入れに参加されました。その後、平成二十六年には韓国の高校生の民泊受け入れをし、翌平成二十七年から更に民泊受け入れ家庭が増えました。取り組みが進んでいく中で、平成二十八年現在、周南市全体での民泊受け入れ登録家庭は約九〇軒で、受け入れた生徒さん、約五九〇人となっています。



民泊家庭での様子です
(写真提供：安野勉さん、マツ子さん)

初めて民泊受け入れをされるご家庭の方からは、どんなことを体験させてあげればいいのかと聞かれますが、生活体験なので、家庭で自然体でできることをしてもらおう、お願いしています。



夕食後には花火をしました！



大道理地区へ民泊で訪れた生徒さんたちは、初日はまず民泊受け入れ家庭合同での夕食会が恒例となっています。受け入れ家庭の皆さんと生徒さんとの夕食を作ります。写真は清瀬高校の生徒さんとの夕食会でのものです。猪肉と大道理産野菜のバーベキューと大道理産のお米を使ったおむすびなど大好評でした！

民泊初日、恒例の大道理地区民泊家庭合同での夕食会
大道理地区へ民泊で訪れた生徒さんたちは、初日はまず民泊受け入れ家庭合同での夕食会が恒例となっています。受け入れ家庭の皆さんと生徒さんとの夕食を作ります。写真は清瀬高校の生徒さんとの夕食会でのものです。猪肉と大道理産野菜のバーベキューと大道理産のお米を使ったおむすびなど大好評でした！

民泊受け入れ家庭の皆さんの思い

【安野勉さん、マツ子さん】

民泊のお話を伺いに安野勉さん、マツ子さんご夫妻のご自宅にお邪魔して最初に「民泊の受け入れは東中学校で何回目ですか？」と聞いてみたところ、居間に飾られた写真を指差しながら、「今回で五回目。受け入れる度に、思い出と写真が増えていって、写真を見ると、最初に受け入れた今宿小学校の子どもさんは今、中学生になっているなあと、この子は大学生になって、今頃どうしてるかな等思い出します。遠くの孫ではないけれど、他人ではないような気がします」と、答えて下さいました。



安野さん宅でぜんざいを食べる清瀬高校の生徒さん
(写真提供：安野勉さん、マツ子さん)

上の写真は安野さんの居間に飾られた清瀬高校の生徒さんの写真です。

民泊受け入れは、中村俊道さんから勧められて始めました。一番最初は市内の今宿小学校の子どもさんたちで、私（マツ子さん）が足を怪我していたこともあって、「洗濯物を干しましたよか？」と言ってくれたことを覚えています。

高校生や中学生と聞くと、最初は構えてしまいがちになりますが、民泊で来た子たちはみんないい子です。一年前の清瀬高校受け入れの時は、ちょうど流星群が流れた時で、皆で道に寝転がりながら流れ星を見ました。楽しく過ごすための遊び方を工夫するのが好きな生徒さんたちだったという印象です。今回清瀬高校の民泊は天気に恵まれず、星を見ることが出来ず残念でした。畑での農作業も出来なかったのですが、天気が良かったら、里芋は親芋に子芋が付いて出来るんだよということなども見せたかったです。



清瀬高校の生徒さんが高齢者サロンを訪れました！
(写真提供：安野勉さん、マツ子さん)



安野さん宅でスリッパ卓球をする生徒さん
(写真提供：安野勉さん、マツ子さん)

農作業はできませんでしたが、自宅ですりッパ卓球したり、二日目の二十六日には高齢者サロンに連れていったりして過ごしました。高齢者サロンでは参加者の方から「どこから来たの？」など質問がこちらから飛び交いました。

少林寺拳法をしてる生徒さんが拳法の形を演舞して、それを参加者の方に見て頂くなど地域の方と交流する時間を持つことが今回出来ました。民泊が終わって東京へ帰った清瀬高校の

生徒さん二人から、先日お手紙をもらいました。手紙の中では、沖縄や北海道などの観光地は大人になってからいつでも行けるけど、普通に生活されている方の中に飛び込んでいく機会はないかなありません。良い経験をさせて頂きましたというお礼の言葉がありました。彼女たちが大学生になってからアルバイトをして、また大道理に来てくれるといいなと思います。

清瀬の生徒さんは「木はあっても近くに山は無い」と言っていました。十一月に来た岩国市の東中学校の生徒さんたちは、まちなかに住んでいるといっても、距離的には大道理と近く、自宅で採れたハブ茶などを出すと、「おばあちゃんちで飲んだことがあります」という生徒さんもおられ、新鮮味がありませんでした。しかし、帰り際には涙をぼろぼろ流して、バスの窓を開けて手を振ってくれました。

ました。こちらとしては、そんなにたいしたこと出来たかどうか分かりませんが、毎回来られた生徒さんたちが喜んで帰って下さることに感激しています。韓国の生徒さんたちが来られた時は、言葉や習慣の違いに戸惑い、「この子たちにこれをさせても大丈夫だろうか」と思うこともありましたが、生徒さんの中での民泊の成果がどのようなものになったかは分かりませんが、毎回こちらは、体験内容を色々と考えて試行錯誤しながら受け入れをして、掃除などの準備は大変ですが、本当に良い経験をさせてもらっていると感じています。』

【森田清美さん、優子さん】



森田さん宅での清瀬高校生徒さん食卓風景
(写真提供：森田清美さん、優子さん)

『この度、民泊で来られた清瀬高校の生徒さんは、「スカートの中のホックが留まらない」というくらいご飯をよく食べてくれたのでうれしかったです。初日の大道理地区合同での食事会での猪肉、大道理産野菜のバーベキューでも、「美味しかった」

と言って、沢山食べてくれました。私たちの家庭は農家ではないので、体験させてあげられることが少ないのではないかと思います。清瀬高校の生徒さんが来られたら、庭の草取りをしてみたいとおもって取らずにおいておいたら、雨が降って体験してもらおうと出来ませんでした。初日、二日目と天候に恵まれず、二日目は島地川ダムへ一緒に見学に行きました。大道理の綺麗な星空を見せられず残念でした。

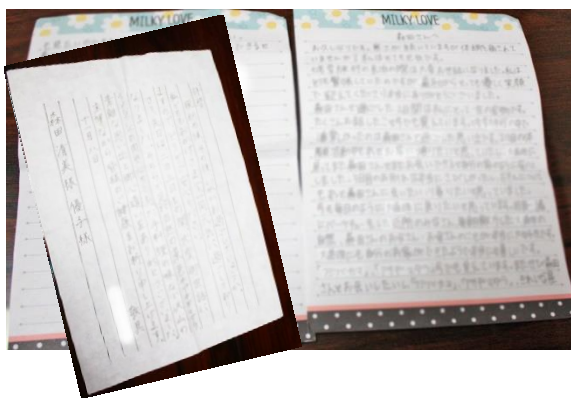


島地川ダムで紅葉楽しんでおられます
(写真提供：森田清美さん、優子さん)

がちょうど、我が家の庭のフジバカマにアサギマダラが飛んできていて、見てもらうことが出来て良かったです。家庭での食事がぐくぐくでは、気を利かせて自分たちで動いて作っていました。

帰る時には「掃除機をかけます」と掃除して帰ろうとしていました。掃除機をかけるまでとわずかとわすかという時なので、「ゆつくりしとき」と言いました。

帰り際、「帰りたい」と言うのくなく、お互いに名残惜しい別れとなりましたが、先日お礼の手紙をもらいました。その中に、「また遊びに来たい」と書かれていました。また会える日を楽しみにしています。



清瀬高校の生徒さんから森田さんご夫婦へ届いたお礼の手紙です

岩国市の東中の生徒さんが来られたときには、近所の三嶋神社近くの落ち葉を集める掃除をしてもらいました。集めた落ち葉で焼き芋をして、皆で食べました。落ち葉で焼き芋を焼く体験は初めてで、「楽しかった」と喜んでくれました。写真提供：森田清美さん、優子さん
左の神社掃除の写真二枚)



東中学校の生徒さん。掃除して集めた落ち葉で焼き芋を焼いて皆で食べました！



神社掃除の後、おみくじを引きました！

岩国は近いので、芝桜の時期にまた来たいといってくれました。

韓国の生徒さん、清瀬高校の生徒さん、東中学校、と民泊の受け入れをして感じることは、民泊受け入れ家庭だけで生徒さんと関わるのではなく、地域全体で関わって盛り上げていくともっと色々な体験を生徒さんにして頂けるのではないかと思います。それから、地域でも受け入れ家庭が増えたら良いなと感じます。』

※大道理地区の民泊受け入れ家庭の皆さんにお話を聞き、今回お伝えできなかった中村俊道さん、寿美さんご夫婦、秋貞正史さん、啓子さんのご家庭でのお話は次号二月一日号でお伝えします。そして、岩国市立東中学校生徒さんの蒟蒻づくり体験についても、次号に掲載させていただきます。